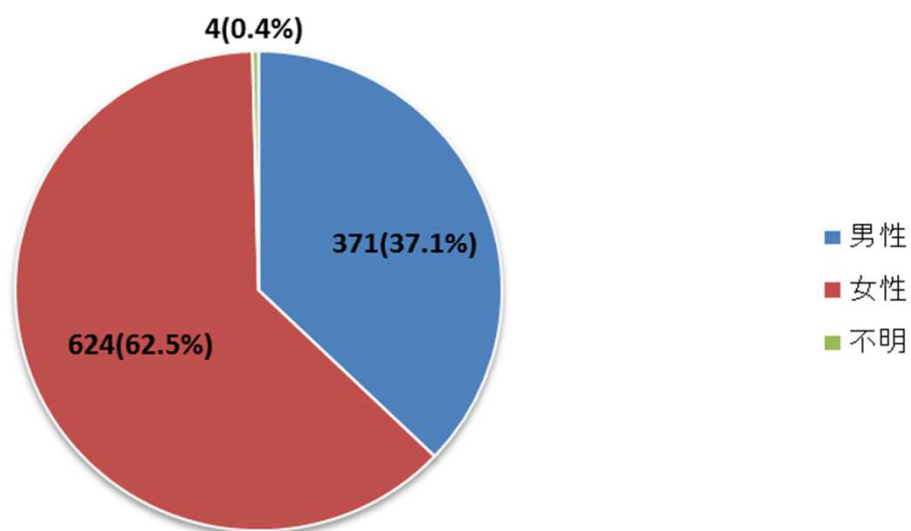


第13回eモニターアンケート「防災・減災について」

実施期間
回答数

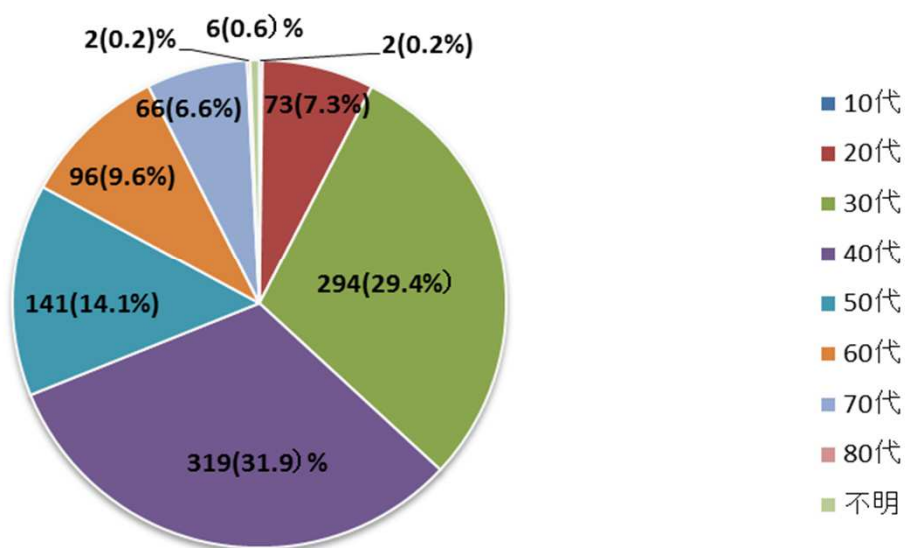
平成28年1月13日 ~ 平成28年1月23日
999 人

男女別割合



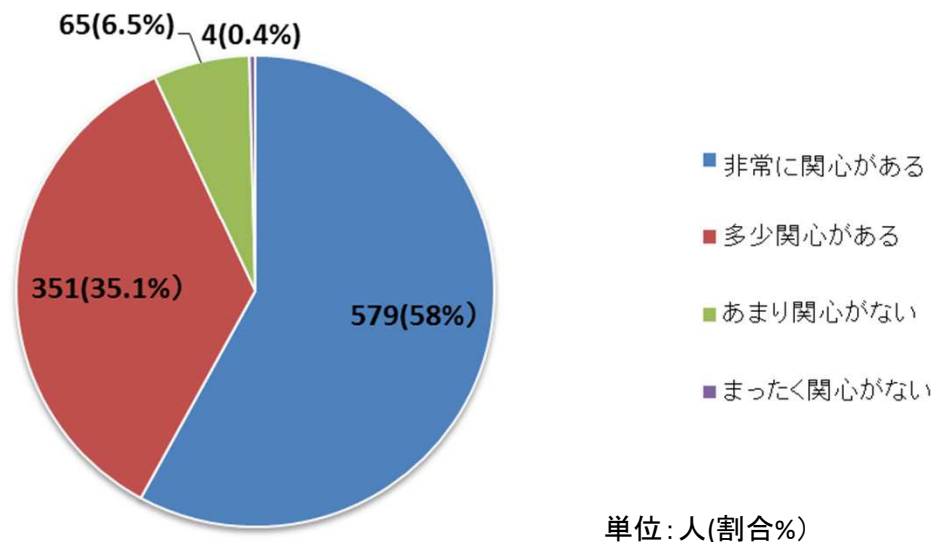
単位: 人(割合%)

世代別割合

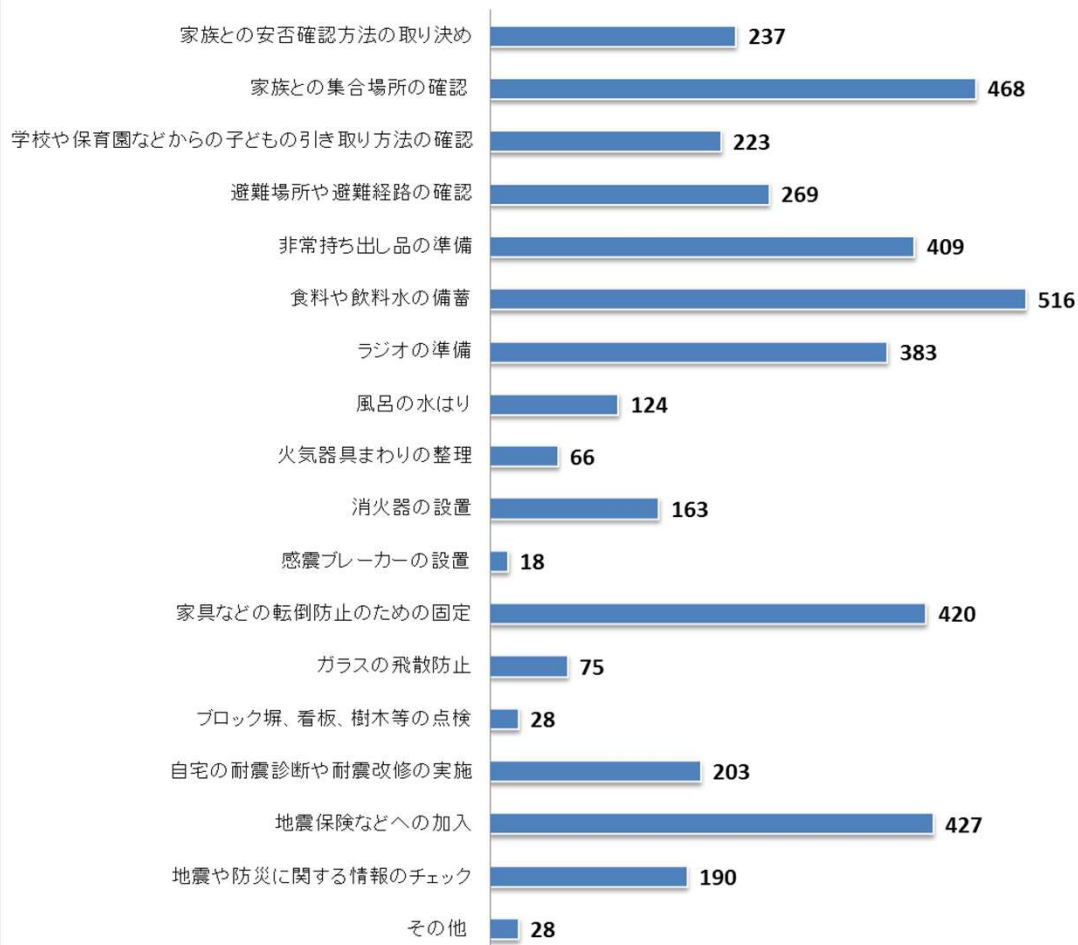


単位: 人(割合%)

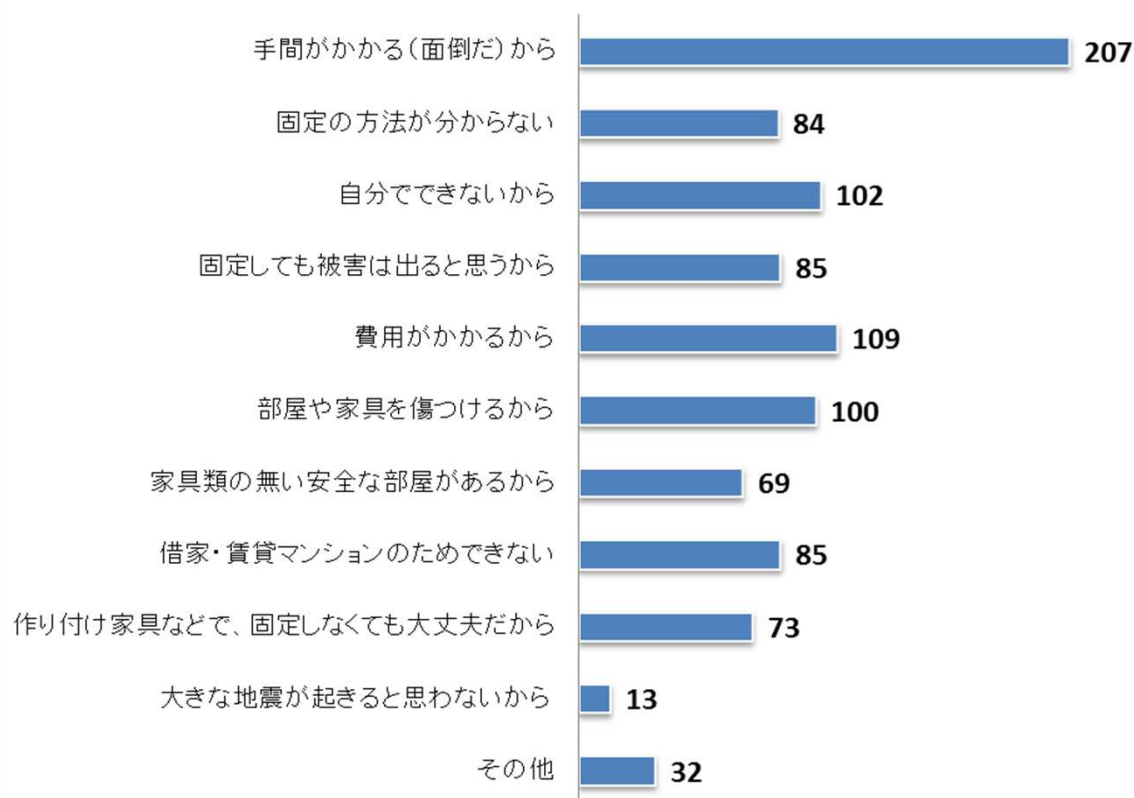
問1: 南海トラフ地震について、関心がありますか



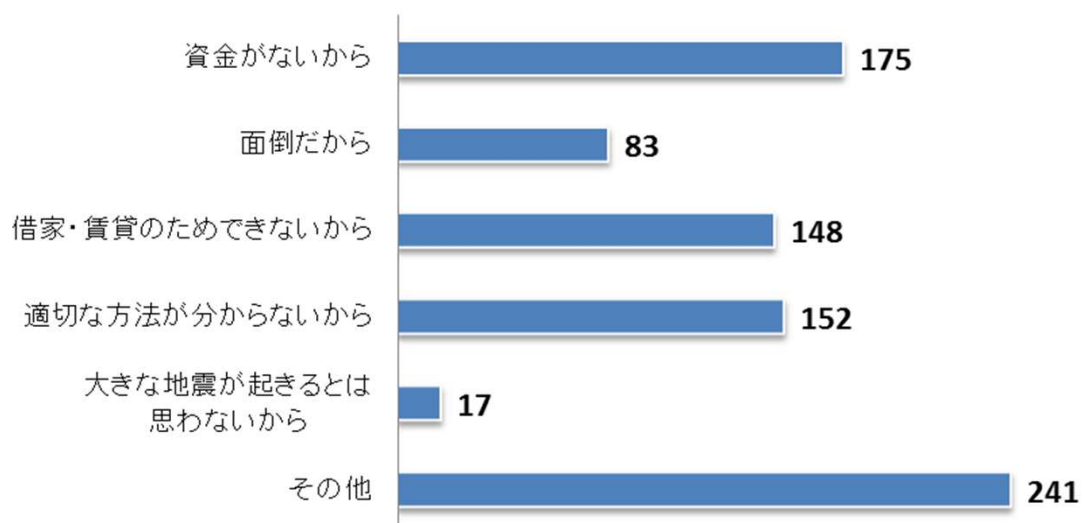
問2: 地震への備えとして、日頃から行っていることは何ですか(複数回答可)



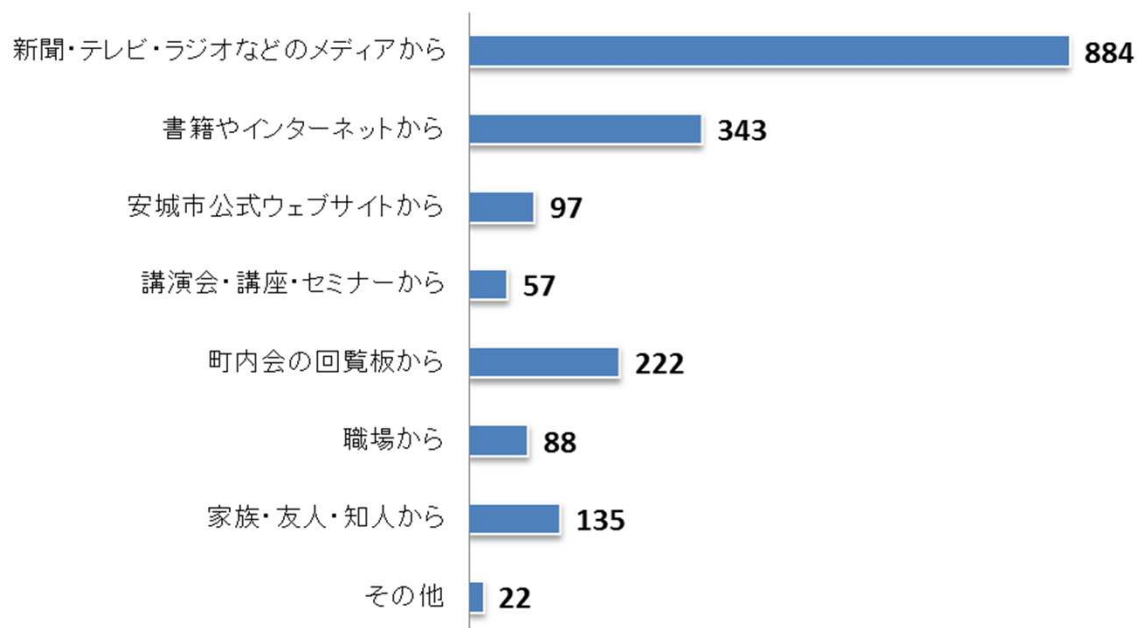
問3: 家具などの転倒防止を行っていない、または行わない主な理由は何ですか？(3つまで回答可)



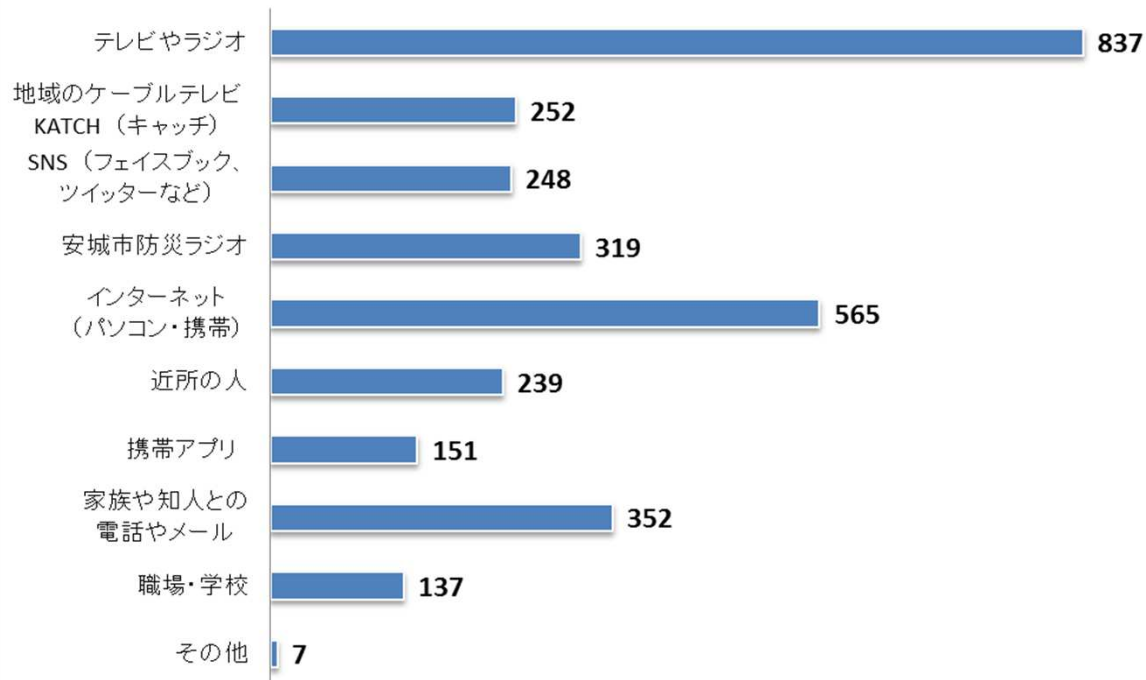
問4: 自宅の耐震診断や耐震改修を行っていない、または行わない主な理由は何ですか？(3つまで回答可)



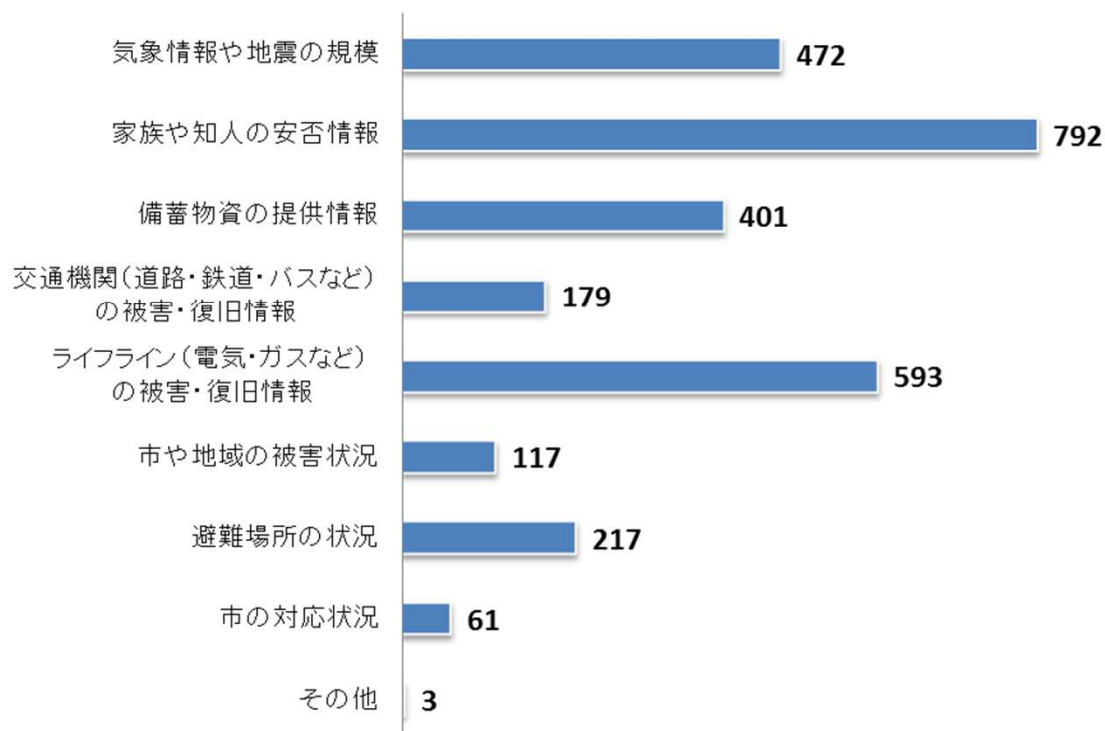
問5: 防災に関する情報は、主にどこから入手していますか(複数回答可)



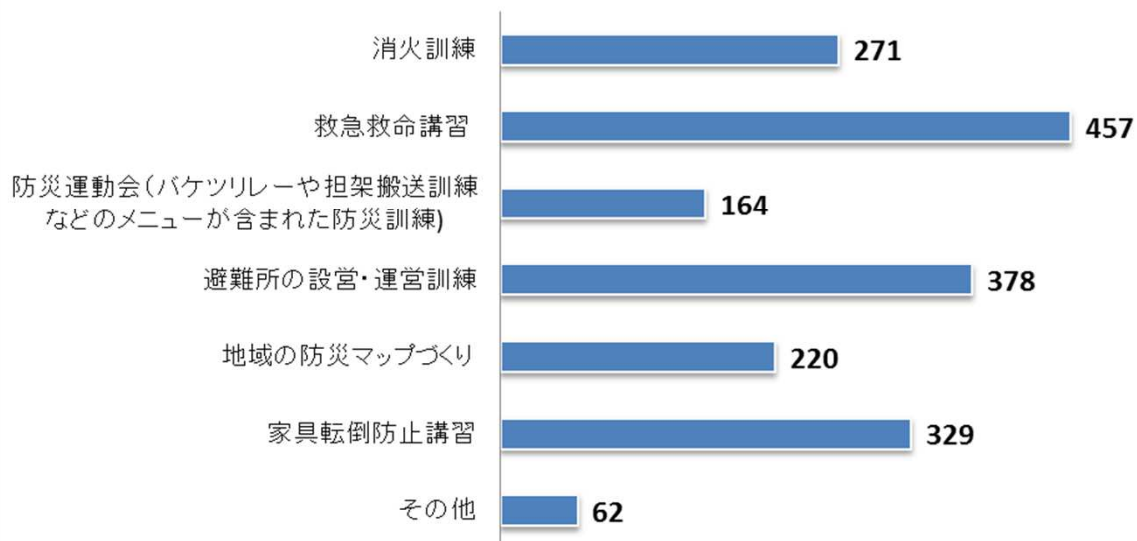
問6: 大地震が発生したとき、有効と考えられる情報入手の手段は何ですか(5つまで回答可)



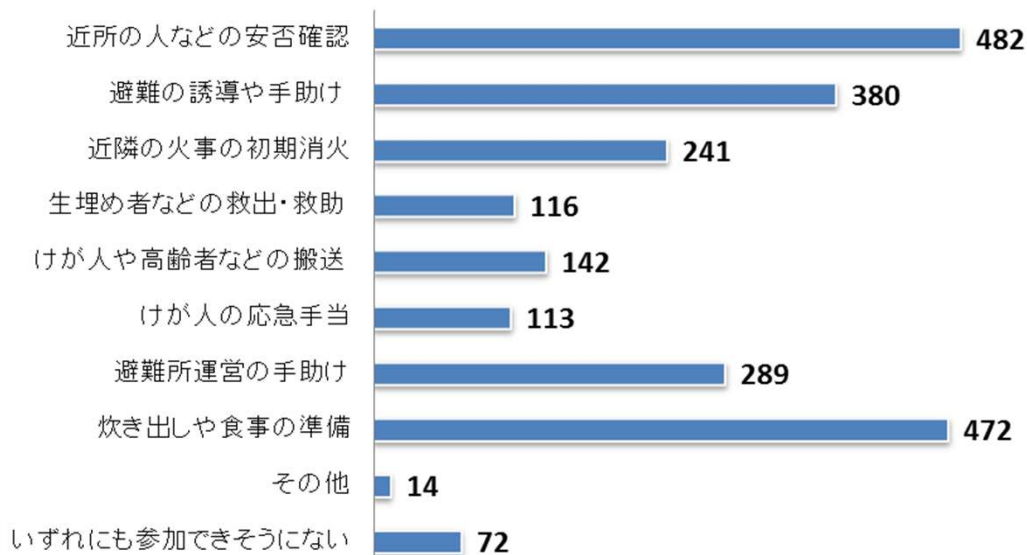
問7: 情報入手する時、特に知りたい情報の内容は何ですか(3つまで回答可)



問8: 地域などで行われる防災活動で、参加してみたい活動は何ですか(3つまで回答可)



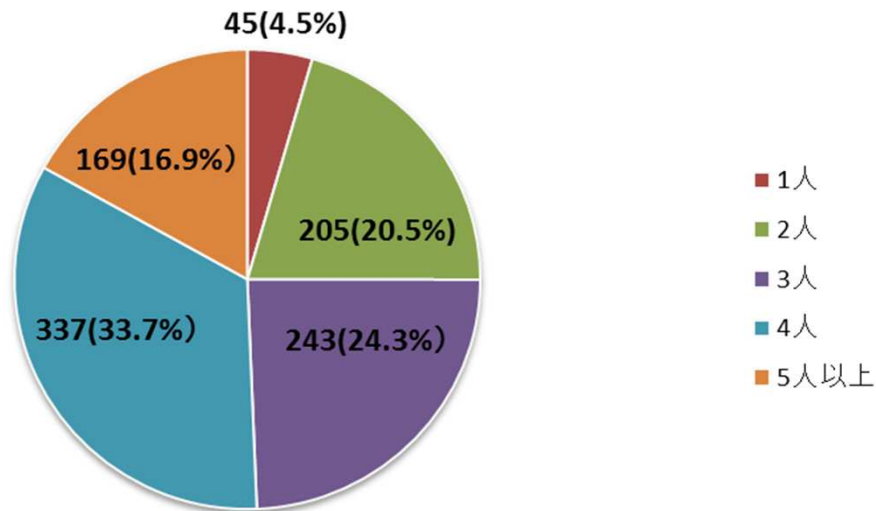
問9: 大地震が起こったとき、あなたは自主的にどのような活動に参加できますか(3つまで回答可)



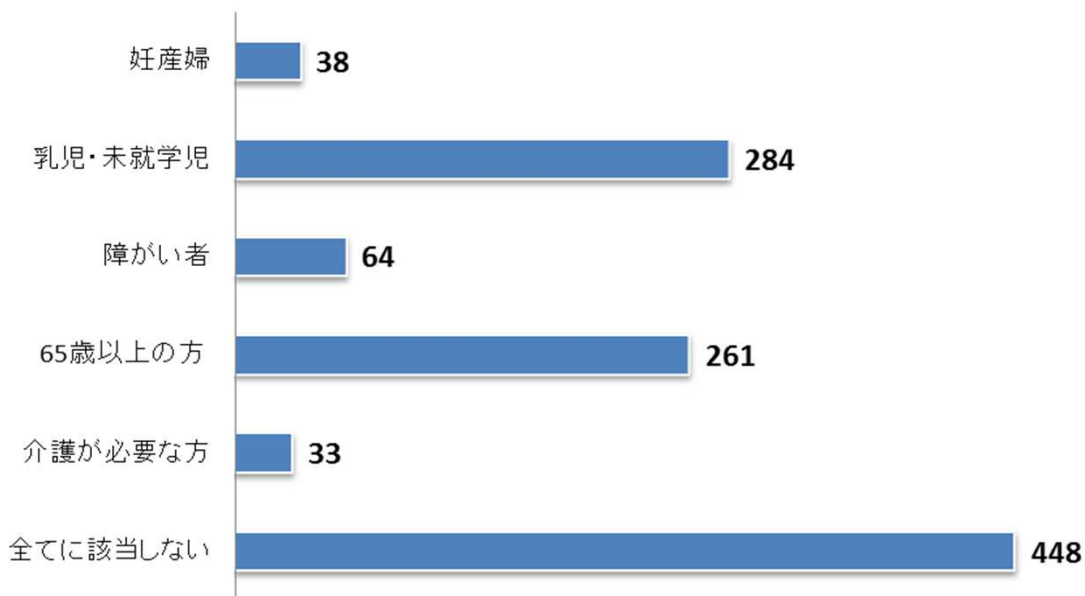
問10: 防災活動として、下記の取り組みは必要だと思いますか(複数回答可)



問11: あなたは何人家族ですか



問12: あなたを含む同居のご家族で、次に該当する方はいますか(複数回答可)



問13: 防災・減災に関するお考えや、効果的と思われる取り組みなどがありましたらご記入ください

- ・今が平和なので、地震に対する意識が低い人が大半だと思う。市や町内会がせっかいい講習会等を開いても参加する人は少ないだろうから、多くの人に参加しやすい工夫をして、より多くの人地震に対する関心を高めるようにすることが重要かなと思います
- ・ご近所の集まりを月に一回行い仲良くする事が大切である
- ・家具の転倒防止器具の格安販売(市の補助)
- ・障害者や高齢者の避難法講習会や訓練

- ・通信手段の一つとしてアマチュア無線局を開局しました。中継局やサーバーを介さないダイレクトな通信方法なので災害時に有効と思う
- ・自分でできる家具固定方法や耐震診断を知りたい
- ・井戸を掘って水源の確保。井戸の助成金など
- ・家具の転倒防止講習をやって頂きたいです
- ・トイレが心配。家庭でできる対策を教えてください
- ・市で総合防災訓練をしているのを知らなかったのもっと宣伝してほしい
- ・安城市防災ラジオを公民館でも入手可能にしてほしい
- ・地域ごとの非難所の案内や非難所でのマナーを教える講習の実施
- ・避難所運営訓練の必要度は高いと思うが、それに加えボランティアの采配をする訓練も必要と思う
- ・最近引っ越してくる(主に)若い方は町内会に加入しない人が多いです。起こるであろう災害に備えて、強制的に加入するようにした方が何かとスムーズにいくと思います
- ・災害時に心配なのはうちには発達障害児がいるので避難所で過ごさないといけなくなった場合周囲に迷惑をかけるのでは…ということ せめて東・西・南・北・中部に一拠点位は障害者・児専用避難所を開設して欲しいです
- ・無駄になっても定期的に防災減災の案内を続ける事が大事だと思います
- ・近隣及び遠方の自治体との連携、協力体制の強化
- ・一泊二日位の疑似避難訓練 耐震診断を受けないのはまだ割に新しいと思うから(築16年)
- ・地震災害の安城市に影響する予測の周知とその対応策の周知
- ・家を建てる際、耐震を考慮したので、その後は特に診断&改修は行っていない
- ・講習会などの啓蒙活動を定期的に行う
- ・防災に関する情報入手: 大学や研究機関の知り合い(測地学や地震学者達)から直接入手する
- ・Boy Scoutの標語に「備えよ常に」が有ります。便利な品元が不足する事態を想定して、もっと、自然に近い生活しむ機会を作り体験させる必要が有るのではとかがええます。
- ・介護が必要な方、お年寄り世帯の避難の協力についての話し合い
- ・備蓄品で作れる料理講座など。楽しくないと参加しづらいので、親子でアウトドア遊び(本格的に一泊とかになるとハードルが高いので、半日。)で、トイレや寝る場所、料理作りを体験できるのも面白そう
- ・家具の転倒防止をしたいが、丈夫な柱の位置がわからない
- ・全体的にAEDの設置が少ないと思います
- ・市民全員で年に一度の防災訓練日を作って一日を安城防災の日とする
- ・身体障害者の方の把握。家族だけでは、安全な場所に避難できないので
- ・防災士の資格取得講習は高価であるため市で補助してほしい
- ・高齢者です。早く動けないので”自分で非難できるように訓練できたらいいな”と思います
- ・町内会で防災訓練を毎年実施しているので、訓練した内容を確実に実施できるようにしていきたい
- ・どの程度の地震でどの程度の災害状況になる予想かを知りたいです
- ・近所の人と顔見知りになっておくことは必要だと思う。ただし、あまり密接な関係を築くのは難しいと思う。挨拶をお互いに積極的に交わすことだけでも、効果はあると思う
- ・近隣道路周辺の危険と思われる個所の具体的調査と指摘&指導
- ・分譲マンションなので耐震補強は必要ないかなと思います
- ・市役所や警察が機能しなくなった時の対応訓練
- ・以前に防災ラジオを市の方で販売していたと思いますが、そのような物を各家庭に配布してほしいです
- ・現在 市営住宅に住んでいるが、高齢の単身者が多く災害時に助け合えるか心配
- ・子供がまだ小さいので、乳幼児・その親を対象とした防災訓練・情報などが知りたいです
- ・家は7年前に震度6にも耐えられる軽量鉄骨住宅を建てたので、耐震診断は行っていない

地域の防災訓練が平日に行われるようになり、参加する事ができなくなりました

- ・安城市のハザードマップが、今一つわかりづらいです。東京都の東京防災という防災ブックがあるのですが、とてもわかりやすく広範囲にわたって、防災に関するいろいろなことが書かれていて、全家庭に配布されたようです。費用もかかるし同じようにできないかもしれませんが、とても参考になると思い
- ・ペットも大切な家族の一員なので、避難所へも連れていけるようにして欲しい
- ・マンションで毎年1回訓練をするので、防災意識も高まり、知識も得られて助かっています
- ・町内会主体ではいろいろ行われて参加はしているけれど、未加入者は何も参加するところがない。本番の時は統率がとれなく混乱が起きる。市が音頭取りで未加入者を含めた訓練、講習会がしてほしい
- ・少し無防備だと思います。意識をこのアンケートをきっかけに前向きに取り組みたいです
- ・被災時の水の供給場所の案内
- ・町内運動会に防災に関する種目を加えて、多くの参加を呼びかける
- ・昭和20年の地震で家の倒壊で下敷きになってしまったとき、地域の協力で迅速に出していただいていますので、その様なときには、ぜひできることを協力したいと思います
- ・訓練に参加する余裕はない
- ・休日にも人によって違います。月から日の各曜日で1回は実施しては如何でしょうか

- ・家屋が倒れるといわれる「川跡」のマップを作してほしい
- ・防災ラジオの局 周波数で聞いていますが放送聞き取りが安定しないです。非常事態の時は個別でなく、昭和の時代の有線の放送ようにスピーカーなどで流してほしい
- ・発災直後の消火・救命・救急活動が最も重要だと思います。また、地域の全戸が水、食品、など避難生活に必要な不可欠な品目を備蓄して災害の発生に備えるなければならない
- ・必ずしも家にいるとは限らないので 防災アナウンスは必要だと思います。町内会単位だと人数が多すぎて、細かい訓練が遠巻きで見ることになってしまいちょっと考えものです
- ・各自の自助意識向上が大事と思うのでその意識づけ
- ・自衛隊との合同訓練
- ・安城に引越して来て3年目ですが、総合防災訓練を実施しているのも、各自主防災組織があるのも初めて知りました。どこでその情報が得られるのでしょうか
- ・大地震に備えての基礎知識、意識を常に高めておくことが大事だと思う
- ・高校生が他県でボランティア訓練していますので、愛知県でも実施して欲しいです。(長女が高2ですが、興味を持っています)
- ・実際に地震が発生した場合、車移動は難しいと思うので自転車を用意しました
- ・消防団というと若者がメインだが、昼間仕事等で地域にはいない者が多い。定年になって昼間も自宅にいる元気な高齢者で組織する消防団を作り、地域の防災や減災活動をしてもらってはどうか
- ・防災放送が聞こえる無線のスピーカーの設置… 町内会の防災訓練で、地震発生や避難情報を車や人がスピーカーで知らせますが、音が行き過ぎるだけで聞き取りにくく、室内にいてはほとんど聞こえません。スピーカーを電柱などに固定して、広い範囲で聞こえるような対策はとれないものでしょう
- ・子供が、自閉症で、避難所での生活が難しいので、とても不安です。一般の避難所以外にも、障害を持った人たちと、家族が気兼ねなく過ごせる避難所があるといいなと思います
- ・避難場所の掲示、誘導看板
- ・自主防災に所属、活動に参加しています。 温度差があるのが残念だ
- ・中高生の地域との連携
- ・気象情報や地震の規模についての情報を早く、確実に伝達するシステムの構築
- ・1)トイレマンホールの位置を知る。2)個人宅用の便座の作り方、板2枚と角棒2本で良い便座が出来るので、そこで溜まった便をマンホールに廃棄する。3)一人暮らしの方、特に高齢者の状況把握が必要、地域でマップを作り、その地域で共有する。4)中学生の防災意識を高める教育をする。地元で居て、体力もほぼ大人なので、いざという時には高齢者の避難の手助けができる。5)避難所が出来たら、その地域を犯罪が起きない様に自警団を作る、特に避難所での性犯罪防止をして行く
- ・どうすれば生き残れるか、生きる為に何をするか、今までの概念にとらわれない講習や指導が必要
- ・全市一斉訓練を実施して各避難所の状況が一元管理できる体制を繰り返し訓練しておく事で万一の場合の混乱を予防する。避難場所毎の責任者を決めて置く。想定外のアクシデントを非公開で訓練に組み入れて体制の強化へとつなげる。避難所毎の対応状況を採点して啓蒙をはかる
- ・まだまだ、認識不足なところもあるので、これを機会に家族で話し合いたいです
- ・子供がいる家庭向けの講習は子供と一緒に受けてみたい。子供にも防災についてある程度認識して、状況に合わせて体験させてあげたい
- ・何を準備すればよいか分からない
- ・自分の住んでいる町内ごとの避難場所の確認と支援物資の受け取り方などの災害時のことをシュミレーションでような一連の説明
- ・地震発生後の地域での転倒建物内に入る人の助け方、初期消火…
- ・備蓄品のできる料理の講習
- ・安城市にある公園すべてに マンホールトイレがあると良いと思った。女性用は、数をふやしてほしい
- ・犬がいるのですが、犬について、災害や防災時にマイクロチップを入れる、犬用の持ちだしぶくろを作るとか、思い付く事はしていますが……実際に犬を被災時にどうするかかんがえると眠れません
- ・防災減災訓練というと、とっつきにくいと思うので、お祭りなどのイベントに合わせて気軽に参加できる雰囲気から訓練等を教育していければ。クイズラリー形式などにすれば、小学生などの家族世帯にて認識してもらえる機会になると思われます
- ・町内会で防災訓練を毎年行っているので必ず参加をしている。防災マップ作りにも参加。AED取扱い講習会も(2・3年ごとに実施)毎回参加。継続して開催してもらいたい。近所の交通弱者の把握も必要。避難場所は家族・近所・知人等と話し合って再確認をし合うことが必要
- ・参加しにくい
- ・防災関連のNPOに登録して活動していますので、被災時に家族が安全なことが確認出来たら、町内会や市のボラコに駆けつけます
- ・倒壊した場合に道路などをふさぐ恐れのあるブロック塀所有者への強い強い啓発
- ・地域のニュースを知るのにケーブルテレビは有効な方法ですが、避難所や加入していない家では見れない為ケーブルテレビよりもコミュニティFMの方が携帯電話やラジオからも聞ける為重点を置く
- ・緊急時の連絡方法や生き埋めへの対処方法の訓練をして欲しい
- ・数年に一度で良いので、もっと大がかりな市全体の訓練を行って欲しい。